

# 園芸タイムリー情報 《7月上・中旬版》

令和4年7月5日発行 第4号

【上川農業改良普及センター】

Tel 0166-84-2017 Fax 0166-84-2009

E-mail : asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp

HomePage

<https://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.html>

## 全作物共通

6月下旬より雨の日が多くなっており湿度が高い状況になっています。病害虫の発生には十分注意しましょう。今後天気は数日の周期で変わり、平均気温は高く、降水量・日照時間はほぼ平年並の見込みです。

- ①ハウス内は高温で経過するため、側窓、妻窓、天窓や換気扇等を活用して換気を行うとともに、気象条件や生育に合わせた適切なかん水と追肥・葉面散布を行い、草勢維持と収量及び品質の安定に努めましょう。
- ②遮光資材を利用する場合は、曇天時の被覆は避け、過度な遮光とならないように注意しましょう。
- ③ハダニ類、アブラムシ類、アザミウマ類の発生が増加する時期です。葉裏や花卉、生長点の観察など発生予察を行い初期防除に努めましょう。高温時の薬剤散布は薬害を生じやすいため、高温となる時間帯を避けて夕方散布に努めましょう。

※農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用ください。

- ◆農薬の使用に当たっては、使用基準を必ず守りましょう。  
なお、品目ごとの栽培防除体系を基に減農薬でクリーンな野菜生産を実践しましょう。
- ◆防虫ネット・近紫外線カットフィルム・粘着シートなどを活用し、適切な栽培管理と合わせ、病害虫の発生を最小限に抑制しましょう。

※この情報は、上川農業改良普及センター本所地域(旭川市、鷹栖町、当麻町、比布町、愛別町、上川町)向けに作成されています。  
気象・土壌条件・作業体系から当地域以外には、適用されませんので十分ご注意ください。  
(不利益・損害などが発生した場合、当方は責任を負うことはできません)  
※掲載されている農薬情報は、令和4年6月22日現在の登録内容となっていますので、活用の際は、あらかじめ安全使用基準を確認くださいますようお願いいたします。

## ■□■□■□■□■□ GAP手法の活用 □■□■□■□■□■ 【農作業安全編】

### ―農作業を安全に行うために 熱中症予防と対応―

平年に比べ、暑い日が続きます。熱中症に警戒して下さい。

- ・日中の気温の高い時間帯を外して作業を行いましょう。
- ・作業前・作業中の水分補給、こまめな休憩を取りましょう。
- ・作業は2人以上で行い、時間を決めて異常がないか確認しましょう。

※暑い環境で体調不良の症状が見られたら、すぐに作業を中断！！

#### ●応急処置

- ①涼しい環境へ避難
- ②服を緩めて風通しを良く
- ③水をかけたり扇いだりして体を冷ます
- ④水分・塩分を補給

応急処置で症状がよくなる  
場合は、すぐに病院で手当

作物名

トマト・ミニトマト

病害虫  
生理障害名

灰色かび病

発生状況

中発生

発生時期

6月上旬～



がくから感染した  
発病果実



葉の病斑とかび

### 発生の状況・要因

- ・6月は葉先や果実での発生を確認しており、今後も注意が必要である。
- ・気温20℃前後で高湿度条件が長く続くと発生しやすい。
- ・枯れた茎葉、摘芽の傷口、果実のがくから伝染しやすい。

### 対策

- ・換気に注意し、ハウス内の除湿を図る。
- ・枯れた葉や脇芽の除去は、なるべく晴天時に行う。
- ・罹病した果実や葉はこまめに取り除き、ほ場外で処分する。

<防除の一例>


予防散布で効果の期待できる剤

- ダコニール1000 1,000倍 収穫前日まで  
トマト（直径3cm以下を除く）：4回以内  
ミニトマト：2回以内

発生が見られた際に使用する剤

- ファンタジスタ顆粒水和剤  
2,000～3,000倍 収穫前日まで 3回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、  
倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

<b>作物名</b>	トマト・中玉トマト・ミニトマト	
<b>病害虫 生理障害名</b>		
葉かび病 すすかび病		
<b>発生状況</b>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">                 葉裏のカビ                  上：葉かび病                  下：すすかび病             </div>	
少発生		
<b>発生時期</b>	6月中旬～	
	葉表の病斑（葉かび病）	

### 発生の状況・要因

- 下葉で葉かび病の発生が少し見られている。
- 両病害ともよく似た病斑を形成し、葉裏にかびが見られる。
- 葉かび病は20～25℃、すすかび病は26～28℃で発生しやすく、共に多湿条件で発生が多くなる。

### 対 策

- ハウスの換気に努め、下葉の摘葉により通気性を確保する。
- 葉かび病は草勢が低下すると発生が増加するのでかん水不足や追肥遅れにならないように気をつける。
- 発生蔓延後の防除は困難なので、予防効果の高いダコニール1000、ベルコートフロアブル、微生物農薬等による予防的防除に努める。
- 発生が増加する場合は、被害葉の除去と下記の治療効果のある薬剤で防除を行う。

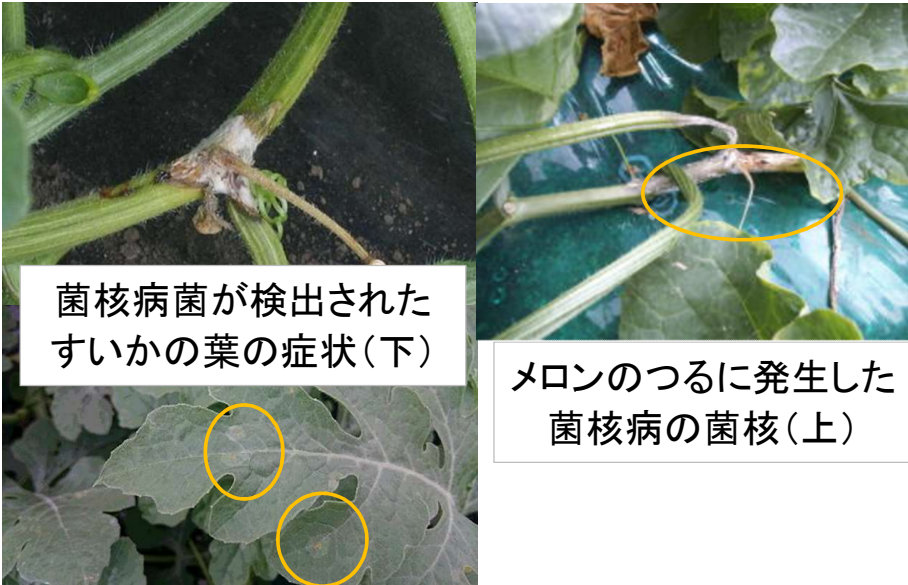
＜発生確認後の防除の一例＞（トマト・中玉・ミニトマト共通）

- トリフミン水和剤
 

葉かび病：3,000～5,000倍	収穫前日まで	5回以内
すすかび病：3,000倍	収穫前日まで	5回以内
- シグナムWDG 2,000倍
 

	収穫前日まで	2回以内
--	--------	------

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名	すいか・メロン	
病虫害 生理障害名		
菌核病		
発生状況		
少発生		
発生時期		
5/上旬～	<p>菌核病菌が検出された すいかの葉の症状(下)</p> <p>メロンのつるに発生した 菌核病の菌核(上)</p>	

発生状況・要因

- ・ つるの分岐部や果実の花落ち部に白色のかび（菌糸）を生じて腐敗し黒色の菌核を形成する。
- ・ 20℃前後の比較的低温が続き、多湿の場合に発生が多くなる。
- ・ すいかやメロンでは、着果期を過ぎ茎葉が繁茂したハウスで発生が多くなる。

対策

- ・ 換気を心がけ、ハウス内湿度の低下に努める。
- ・ 着果期前より予防防除を実施する。
- ・ 被害茎葉・果実は見つけしだい除去し、ほ場外へ搬出する。

＜防除の一例＞

●スミレックス水和剤

すいか 1,000～2,000倍 収穫7日前まで 5回以内  
 メロン 2,000倍 収穫前日まで 3回以内

※スミレックスくん煙顆粒は、メロンには登録がなく使用できません。

●カンタスドライフロアブル

すいか・メロン：1,000～1,500倍 収穫前日まで 3回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名

すいか・メロン・きゅうり

病虫害  
 生理障害名

ハダニ類

発生状況

少発生

発生時期

6月上旬



きゅうり



すいか



メロン



ナミハダニ（成虫と卵）

発生の状況・要因

- ・葉の裏に寄生し、吸汁により葉の表に白いかすり状の斑点が現れる。発生密度が高くなると葉全体が黄変枯死する。
- ・高温乾燥を好むため、ハウスでは露地よりも早く発生する。

対策

- ・ほ場をよく観察し、発生初期の低密度のうちに防除する。
- ・ハウスでは、侵入しやすい出入り口やサイドなどの開口部付近を中心に、よく観察する。
- ・薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一薬剤は連用しない。

<防除の一例>


●コロマイト乳剤

きゅうり	1,000～1,500倍	収穫前日まで	2回以内
すいか	1,000倍	収穫7日前まで	2回以内
メロン	1,000倍	収穫前日まで	2回以内

●ニッソラン水和剤

きゅうり	2,000～3,000倍	収穫前日まで	2回以内
すいか	2,000倍	収穫前日まで	2回以内
メロン	2,000倍	収穫3日前まで	2回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名	あぶらな科野菜全般	
病虫害 生理障害名		
キスジノミハムシ		
発生状況		
少発生		
発生時期	キスジノミハムシ成虫 (体長2~3mm)	こまつな葉部食害
5月下旬~		

### 発生の状況・要因

- 成虫は葉、幼虫は根の表皮を食害する。
- 引き続き成虫の発生が見られる。
- 毎年7月頃が発生のピークとなるので注意する。

- 成虫期間：1~4ヵ月
- 卵期間：5~7日
- 幼虫期間：10~20日
- 蛹期間：3~15日

### 対策

- 成虫の多発時は防除効果が劣るため、ほ場をよく観察し、発生初期防除に努める。
- 土壌施用粒剤は、土壌水分が極端に低下すると効果が劣るため、かん水管理に留意する。
- ハウス内外の雑草や作物残さを適切に処分し、発生密度を高めないようにする。

<防除の一例>

こまつな（非結球あぶらな科葉菜類）

- フォース粒剤 4kg/10a は種時全面土壌混和 1回




チンゲンサイ

- スタークル粒剤 6kg/10a 定植時土壌混和 1回

ハゲサイ・ターサイ・みずな・こまつな（非結球あぶらな科葉菜類）

- モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍 収穫7日前まで 1回

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名	あぶらな科野菜全般	
病虫害 生理障害名	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>コナガ成虫</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>幼虫による葉の被害</p> </div> </div>	
コナガ		
発生状況		
少～中発生		
発生時期		
5月下旬～	 <p>コナガ幼虫</p>	



### 発生の状況・要因

- 幼虫が葉裏に潜み、葉の表皮を残して食害する。
- 6月は成虫、幼虫ともに継続的に発生が見られた。
- 7～8月が発生のピークとなることが多いため今後も注意が必要である。

### 対 策

- ほ場周辺の雑草をこまめに除くことで、ほ場に飛び込む成虫を軽減させる。
- 侵入口となる隙間を作らないように防虫ネット（目合い1.0mm）を設置する。
- 品目により薬剤の登録内容が違うので、ラベルを確認してから使用する。
- シアミド剤の防除効果の低下事例が確認されているため、複数系統の薬剤を用いたローテーション防除を実施する。

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名	あぶらな科野菜など葉菜類全般	
病虫害 生理障害名	 	
ナメクジ類 カタツムリ類		
発生状況		
少～中発生		
発生時期		
5月中旬～		

発生状況・要因

- ナメクジ・カタツムリは、ほ場周辺の雑草地、石の下、日陰など暗くて湿気が多い場所を好み、地中で越冬する。
- 葉の食害の他、這った痕の粘液の汚れ、本体やフンの混入が問題となっている。
- 雨天時や夜間は活発に活動する。
- 6月下旬の大雨で、今後は発生が増加する恐れがあるため注意が必要である。

対策

- 常発ほ場では通気を良くして湿気を放出する。
  - ほ場周辺の雑草をこまめに除く。
  - スラゴを使用する場合は作物周辺あるいは株元の土壌表面に散布し、作物に付着しないように気をつける。
- <防除の一例>  
 ●スラゴ 1～5g/m<sup>2</sup> (3.3～16.5g/坪) 発生時

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。